

紹介

ブズガーリンのロシア経済論

保 坂 哲 郎

はじめに

旧ソ連経済や東欧経済の体制転換にたいし、IMF等が主導し新古典派経済学やシステム論が展開している「計画経済システムから市場経済システム」という概念把握の仕方は行き詰まっている。

経済のマクロ的「安定化」もままならず、生産再建にいたってはさらに諸困難に見舞われており旧ソ連は基本的に発展途上国化（あるいは「産油国」化）している。一挙に世界経済競争に経済開放するといった従来の世界経済でも類をみないような政策が押し付けられ、膨大な労働者、生産設備等を無価値なものにしている。

さらに市場経済化が促進できれば独裁でも民主主義でも関係なく問題は「政治的安定」にあるという、貧しいオールタナティブの中で政策が設定されている。現在、うまれつつあるのは「野蛮な」資本主義でしかない。

今回検討するブズガーリン（モスクワ大学教授）は以上の機能論的分析と違い因果的・発生的関連の中で、また制度論的分析を加えて現在のロシア経済を分析し、（政治的にはきわめて少数であるようだが）オールターナティブの考えを提案している（注1）。

1) 旧ソ連社会とは何であったか

ブズガーリンは以下のように旧ソ連社会・経済をとらえる。旧ソ連には異種

類のマクロ的、ミクロ的技術システム（生産力システム）が形成されその非内在性、非均質性は非常に大きい。中心は軍需・工業的生産で高級エンジニア、研究者が従事し典型的なフォード式生産であるが残りの20-30%は補助的生産における重手労働が存在、地域、部門複合でも技術的混在、また大きな現物経済化部分が混在している。

生産関係システムも独特であり現在まで実際に存在し支配的であったのは、（1）ノメンクラトゥーラ（特殊な疑似所有者社会層、より正確には非合理的な所有者、富にたいし非常に限定された責任をもちその名目的増加に関心をもつ）による国家資本主義的な労働者の雇用と搾取、（2）経済外的労働強制（住民登録証）の要素、（3）歪曲された社会主義の要素（就業保証、社会的保護、集団主義等）、（4）非合理的市場取り引き、特に闇経済において現れる独特の地下私的市場の要素であった。

すなわち一連の原理的に異質な、対立する関係（極端に密接に相互関連し相互補完する）の非内在的で非均質な混在が特徴であり（「サラダ的」、その各々が労働者と生産手段の実際の結合過程の側面をつくっている。

全体を関連させているものは全体主義的な官僚的システム（制度化された階層的な官僚的システム、独占化された所有・管理・政治権力の諸機能の存在、諸生産関係システムへの寄生）である。

この全体主義的システムの機能の結果、（1）社会全制度の特殊な型（国家、銀行から勤労集団、労働組合にいたるまでの）の存在。それは官僚再生産の制度であり補完的に他の機能をもつ。（2）労働者制度の特殊な型。機能や層再生産が自己の法則性に基づきノメンクラトゥーラを生み出しその職業的質はその地位に従った。（3）全システムはイデオロギー的、儀式的、フェチシズムの性格を帯びている。

ペレストロイカは社会から極度に疎外された官僚主義制度的権力としてのノメンクラトゥーラの維持という性格をもった。

2) 計画経済から市場経済への移行の本質は何なのか

この移行、転換に関してブズガーリンは次のような把握をする。

ロシアはこの混在し非有機的なシステムから「離陸」する分岐点にいる。上述した諸要素の非有機的混在の解体という緩慢な進化的分岐がちかいかい将来のロシア社会経済空間の種差 (*differentia specifica*)をつくる。

現在の転換は三構成の転換、交差した運動である。(a)「突然変異社会主義」の漸次的な死滅、(b)ポスト古典的世界資本主義経済関係の発生(私的・コーポラティズム的所有に基礎をおいた現代的市場経済)、(c)あらゆる現代的転換プロセスの基本的前提としての社会・経済的生活の社会化と(経済活動決定における社会・集团的、全国民的、国際的価値の役割の増大)人間化の傾向。(a)「突然変異社会主義」は自己組織化能力と文化水準の不十分性の中で生まれた。不十分な改革能力の中で内容を否定し反対の外観をとる形態をもった。社会化の全世界的傾向(経済の自覚的規制、個性の自由な発展、社会的公正)はこの社会では官僚的「突然変異」(指令経済、個人的権利や自由の抑圧、全般的国家化、均等化等)の特徴となった。(c)社会・経済的生活の社会化・人間化を正確に分析しているのは「ローマ・クラブ」である(その点をブズガーリンは、物的生産がますます文化-教育・養育・科学・芸術・レクリエーションの創造にとって代われ、主要資源は勤労者の創造的な革新的能力になり、エコロジー的諸問題が第一義的意義をもつような社会への移行に関する認識であるという)。

この過渡期経済は二重のプロセスとして特徴づけられる。「突然変異社会主義」の市場システムへの転換と、質的に新しい社会・経済的諸要素の蓄積(条件つきで「人間のための経済」という)である。

ここでブズガーリンは、「資源配分メカニズムの転換」の特徴として地域的、コーポラティズム的規制メカニズムの大きな役割をあげ、「所有関係の変化」の特徴として旧国家・官僚的所有形態の私的所有形態への経済外的転換政策(国家資産の窃盗)と、犯罪組織所有の合法化、旧国家雇用職員の原始資本蓄

積を基礎にした私的所有の独立した発達の援助をあげる。

過渡期の全所有形態の内容はコーポラティズム的・資本主義的な搾取で、実際の所有者（制度的に大きな所有権部分を自己の手に集中）はノーメンクラトゥーラ・資本主義的コーポラティズムであって、これらは所有の社会化、小私的所有者の非線型的ルネッサンスのような全文明的傾向の抑圧である。この転換は労働者の所有からの疎外を増幅させ、その経済動機の利用を抑圧し、所有の社会化や労働者の私的所有の確立に対立するものである。

「分配関係の法則性」の特徴は、その目的がノーメンクラトゥーラ・資本主義的コーポラチズムの手にさらに大きな経済権力を集中させるという特殊性をもっており経済外的方法の広範な適用が見られる。

「労働諸関係の法則性」の特徴は原始的労働市場の形成（労働者のアトム化、無権利、高い搾取ノルマ）、市場以前関係と歪曲された市場以後現象（集団的企業、パターナリズム、集団主義と相互援助の伝統）の結合に見られる。これらの労働関係形態のアンチテーゼとして勤労者の自己組織化、自己防衛への、弱いが確固たる傾向が働いている。

3) 移行のオルターナティブ「人間のための経済」とは何か

ブズガーリンのいうオルタナティブとしての「人間のための経済」をまとめてみると以下のように要約できよう。

現在のロシアのかかえる課題として次のようなものがある。所有関係の危機と主人公動機の発達の課題。労働や経営動機の危機とその克服。官僚的制度システムの克服と社会的創造性の発達課題。その中でコーポラティズム・資本主義的、官僚主義的な生産手段所有から労働者の疎外を克服することこそが、過渡期経済危機克服の人間の要因「活性化」の要点である。

経済社会化・人間化の全文明的傾向は、創造的労働や企業活動効率化の最も重要な手段の一つが各人の主人公的動機の発達であることを示している。労働者の生産手段からの疎外を克服する方法の実際的前進が重要な課題である。

(a)多様な所有形態の存在、(b)労働者への所有の移転、(c)協同組合的企業

の増加と効率向上、(d)特別な法人における労働者参加拡大や自主管理の遂行。(e)国家、協同組合的セクターの維持、(f)ポスト産業主義的な技術、科学、教育、芸術等において多様な形式の共同活動や社会的協同の発達等が全世界的傾向として見られる。

所有関係の民主主義的改革は、社会的公正問題実現手段としてだけでなく(現在の民営化は平等を保証しない)、まず経済的効率達成の条件として広範な国民層の主人公動機の発達として考えられる。

所有からの労働者の疎外は労働的、創造的労働活動の刺激を弱め、熟練や知識水準の向上(これなしでは現代的生産発展は考えられない)への刺激を低下させている。現在、古い(疑似社会主義的)支配形式から新しい(コーポラティズム・資本主義的)形式に転換する中で、コーポラティズム・官僚的構造の支配は継続しており、労働者の疎外は国家的所有、株式所有の各段階で再生産され、官僚化された私有化が進行している。従ってロシアで次の課題を解決することがせまられている。国民の全面的な疎外、なによりその生活実行諸条件からの疎外を克服する課題。同時に社会的公平性原則を守ることである。

人間のための経済とは以下のようなシステムである。国民全ての層の豊かさが保証された、社会的に方向付けられた効率的な経済。そのための目標として、経済的価値としての人間発達課題の認識と選択(特に飢餓の脅威、ロシア国民の実質消費水準低下や社会的退廃、文化的・知的能力崩壊の防止を重視すべきである)。同時に効果的で積極的に刺激される労働、企業活動、広範な創造性、大きな人間的能力の解放はその社会・経済発展の最重要な手段となる。

戦略的課題は次のようなものである。バランスのとれた消費市場(国民全層が基本的消費財・サービスを入手できる価格水準で需給をバランス)の創出。消費部門の優先的発展。

ロシアには大きな創造的能力や技術能力があり、人間発達を保証する部門優先の構造的再編を目的にすべきである。そのための経済の規制と産業政策の実施。高い質をもった物材・人的資源の総合的集中、技術改革分野への資金の総合的集中が必要となる。さらに、あらゆる多様な形で社会文化領域や創造的労働の優先順位を保証すること。それは目標であるだけでなく高質の労働力(主

要な経済資源、生産増大の手段)をつくる最重要な手段である。この分野を発展させる最重要な課題は科学・教育・訓練・文化・保健・スポーツの高い水準の結合と、国民全ての層の平等な到達にある。社会的公平性のみが各人の創造的能力を発揮し利用することを可能にする。

また文化的価値として、また人類生存の絶対的に必要な条件として、自然との関係に関して中期的展望の中で以下の課題がある。より厳しいエコロジーの基準の段階的導入、民主主義的基礎のうえに全経済案のアセスメント実施、自然的レクリエーションの発達、エコロジー的災害地域の区分と救済活動実施原則の作成である。

4) おわりに

彼のソ連・ロシア経済分析においては、経済・社会の変動の中で変動・発展する階級的主体の分析が欠落している。ソ連革命の根拠、ソ連が突然変異を遂げた根拠、その中で階級の実態、新しいオルタナティブを選択する階級主体の分析、いずれの点も彼の分析において欠落している点である。

ただ、現在の私の問題意識からまとめるとマルクスのいう個人的所有の「再建」、 「再結合」をブズガーリンは現在ロシア経済・社会の転換や復興の中心的な概念として捕らえており、それは現在の「先進工業国」において見られる多様な所有形態の混在や発展という傾向や問題を考える場合でも、あるいは現在世界のいわゆる「環境の諸問題」について考える場合でも非常に重要な概念と見るべきであると思われる(地域、国家、国際、世界の各レベルにおいて住民、国民等に環境への管理を委ねる、あるいは管理に参加させるという方向性なしで現代の環境保全は不可能である)。また将来の「社会主義」像も非商品生産で一国家一工場的なあり方ではなく、様々な形態において労働者と生産手段とが再結合した、あるいは統合された生産や所有のあり方の発展したものが中心になった市場経済と考えることができるように私には思われるので、その点でも非常に示唆をえた主張である。このような諸形態(生産関係)は資本主義の中で萌芽が生まれ発展していく性質のもので様々な協同組合、労働者自主管理

形態の萌芽が生まれている。

他方、将来の社会は、ブズガーリンのいう「人間のための経済」、人間各人の能力の全面的な開花を促進し発展させる問題の尊重・重視が「社会的に方向付けられ」、そのために経済が規制されていく社会でなければならないであろう。社会的公平性原理に基づいたこの分野の「社会的方向付け」は、各人の豊かな生命の実現や再生産を保証する方向であり、資本原理に対抗して諸「公的規制」が必要な分野でもある。資本主義の「大競争」時代といわれる21世紀にむけて、この分野における歴史的経験や成果もまた将来の社会システムのあり方を方向付ける重要な意義をもってくるのであり、ブズガーリンの主張はその点でも核心をついた主張である。

注

- (1) 今回私が検討の対象としたブズガーリン論文は、А. В. Бузгалин, А. И. Колганов, Экономика для Человека, 1992. А. В. Бузгалин, Специфические Черты Современной Отечественной Экономики, 《Вестник Московского Университета》, Экономика, 1993-3. А. В. Бузгалин, Будущее переходной экономики—Экономика для Человека, 《Вестник Московского Университета》, Экономика, 1993-4. Демократическая Альтернатива 《Шоковой Терапии》, 《Вестник Московского Университета》, Экономика, 1993-5. Закономерности Переходной Экономики: Теория и Методология, 《Вопросы Экономики》, 1995-2. Переходная Экономика: Закономерности, Модели, Перспективы, 1995. А. В. Бузгалин, Г. Ю. Дубянская, З. А. Корчагина, Раскрепощение Человеческого Потенциала—Условие Преодоления Кризиса Отечественной Экономики, 《Вестник Московского Университета》, Экономика, 1995-1. である。各論文とも重複した部分が多くまた彼の論旨は一貫しているので引用部分の指摘は省いた。また私は「ロシア ユーラシア経済調査資料」1996年2月号に、「経済学の諸問題」掲載論文

を中心とした彼の諸説を紹介している。上記諸論文等の紹介やコピー提供を受けた東京外国語大学岡田進教授に謝意を表したい。